



**Kodak**

# i4000 プラスシリーズスキャナー

ISIS アプリケーション用  
スキャンセットアップガイド

# ISIS ドライバの使用

---

## 目次

Scan Validation Tool の起動 .....	2
イメージ設定の構成 .....	4
[メイン] タブ .....	6
[レイアウト] タブ .....	9
[スキャン領域] ダイアログボックス .....	10
[イメージ処理] タブ .....	12
[カラーの自動検知] タブ .....	14
[ドロップアウト] タブ .....	16
[調整] タブ .....	17
[イメージの端を埋める] タブ .....	19
[ブランク イメージ検出] タブ .....	20
[バージョン情報] タブ .....	21
スキャナ設定の実行 .....	21
[スキャナ] タブ .....	22
[重送検知] タブ .....	25
[インプリンタ] タブ .....	27
[ログ] タブ .....	29

コダック i4000 プラスシリーズスキャナーはイメージ処理機能によって高画質のスキャンイメージを取得できます。

**イメージ処理**とは、それぞれのイメージに対して傾き修正や粹消し、イメージのノイズ除去などスキャン画像の質を自動的に向上させる機能のことです。

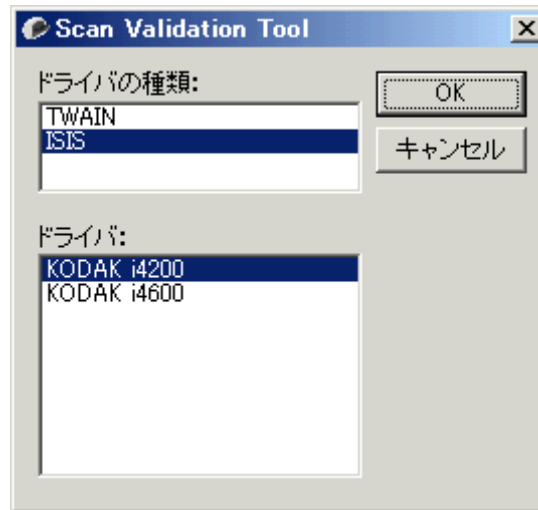
ISIS ドライバは、スキャナーと通信を行うソフトウェアです。このドライバは EMC Captiva によって製作、サポートされ、コダックがスキャナーに同梱しています。このドライバは ISIS ドライバをサポートする多数のスキャンアプリケーションを接続するために使用されます。


本ガイドでは ISIS ドライバウィンドウのタブの機能について説明します。これらの機能は、使用しているスキャンアプリケーションのユーザーインターフェイスでも選択できます。

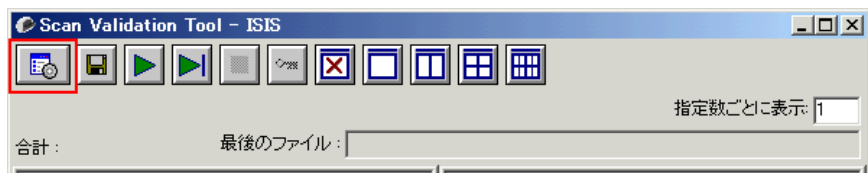
## Scan Validation Tool の起動

注：Scan Validation Tool はコダックから提供される診断ツールです。コダックは Scan Validation Tool をスキャンアプリケーションとして使用することをサポートしません。

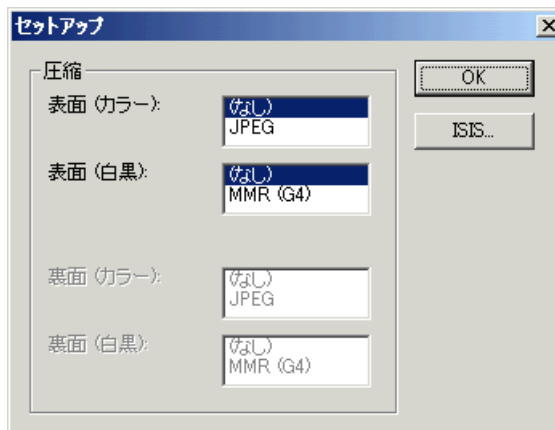
1. [スタート]>[プログラム]>[Kodak]>[Document Imaging]>[Scan Validation Tool] を選択します。



2. ドライバの種類から ISIS を選択し、ドライバとしてコダック i4200 (i4600) を選択してから、[OK] をクリックします。
3.  アイコンをクリックして、イメージ表示パネルを有効にします。
4. Scan Validation Tool のメイン画面でセットアップアイコンを選択します。

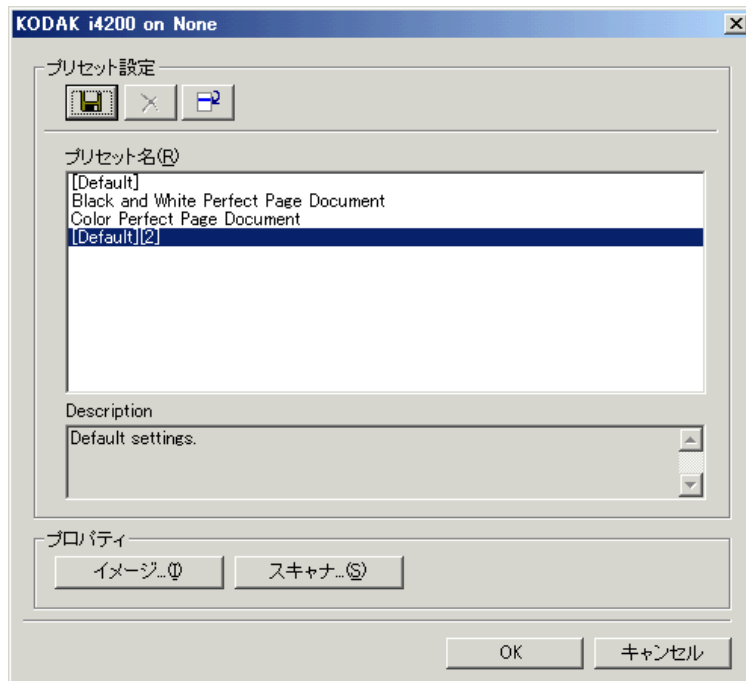


[セットアップ] ダイアログボックスが表示されます。



5. [ISIS]をクリックします。[プリセット設定] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには保存されたドライバ設定のリストが保持されます。

プリセットは保存、削除またはインポートのほか、セットアップされた既存のプリセットや変更するプリセットを選択できます。



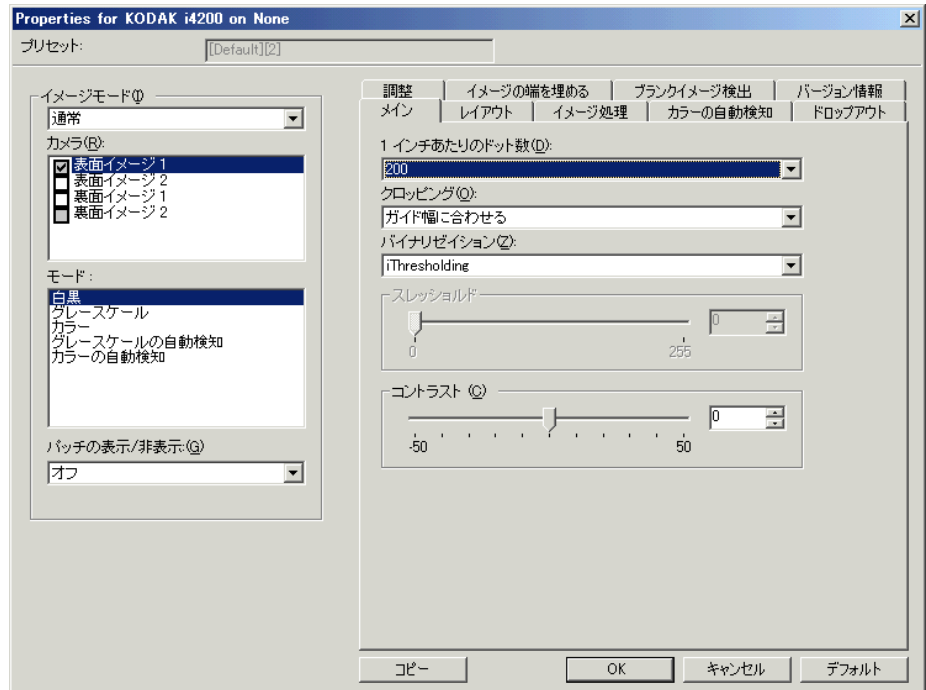
6. [イメージ]をクリックして、イメージ設定を調整できます。

以下の章ではイメージ設定の詳細や手順について説明します。スキャナー設定の手順については、この章に後述の「スキャナー設定の実行」を参照ください。

## イメージ設定の実行

ISIS ドライバのメインウィンドウにはイメージ設定に使用するタブがあります。スキャン要件に合わせて、これらのタブを使ってオプションを設定できます。

注：(メイン、レイアウト、イメージ処理など) すべてのイメージタブでは **[イメージモード]**、**[カメラ]**、**[モード]**、**[パッチの表示/非表示]** が選択可能です。



**イメージモード** - 次のいずれかのオプションを選択します。

- **標準**：通常は 1 枚の原稿につき、表面に対して 1 つのイメージが作成され、裏面に対して別のイメージが作成されます。表面と裏面のそれぞれに一つずつ別のイメージを作成する場合に選択します。
- **結合**：このオプションをオンにすると、1 つのイメージに原稿の表面と裏面の両方を表示します。イメージ結合では次のオプションを選択できます。

- 前面を上、前面を下、前面を左、前面を右。

**カメラ** - イメージでスキャン可能な面（表面および裏面）が一覧表示され、それぞれの面でイメージ処理値を定義できます。オプションには、**[表面イメージ 1]**、**[表面イメージ 2]**、**[裏面イメージ 1]**、**[裏面イメージ 2]** があります。

コダックスキャナーのドライバでは、カメラ設定を個別に設定できます。白黒イメージに適用される設定や、カラー/グレースケールイメージに適用される設定があります。

モード - 次のオプションからいずれかを選択します。

- **白黒**：白と黒の 2 階調で構成したイメージを作成する場合に選択します。
- **グレースケール**：グレースケールでイメージを作成する場合に選択します。
- **カラー**：イメージをカラーにする場合に選択します。
- **グレースケールの自動検知**：自動カラー検知をグレースケール用に設定します。詳細は、「[カラーの自動検知] タブ」を参照してください。
- **カラーの自動検知**：カラースキャンで自動カラー検知を設定します。詳細は、「[カラーの自動検知] タブ」を参照してください。

**パッチの表示 / 非表示** - トグルパッチを印刷した原稿から、スキャナーでその原稿がカラー / グレースケールまたは白黒のいずれかを判断します。

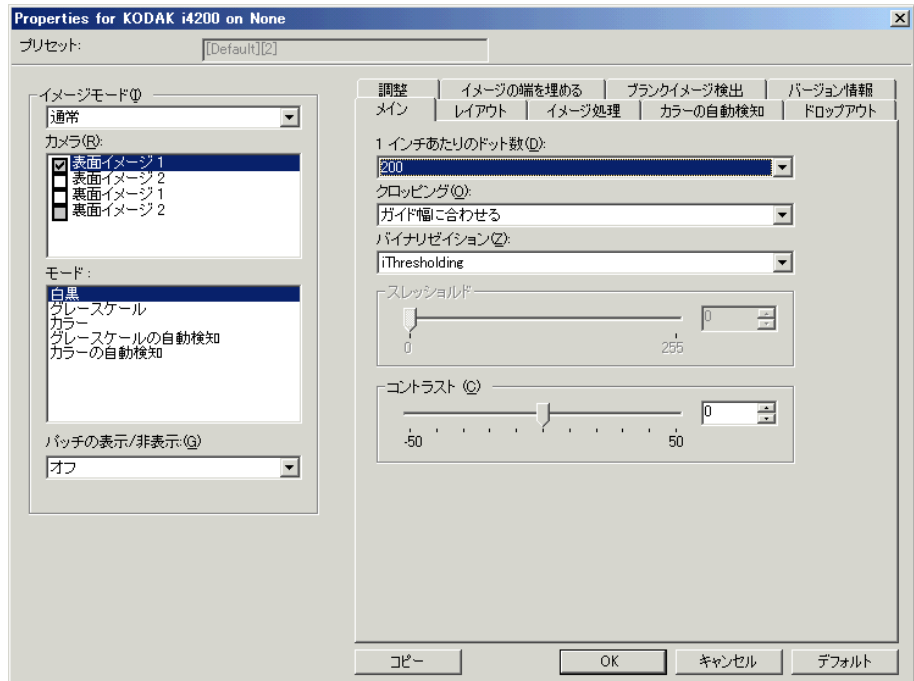
- **オフ**：パッチは認識されません。
- **同面**：パッチシートを認識する片面のみ切り替わります。
- **両面**：パッチは両面で認識されます。

**ボタン** - ウィンドウ下部にあるボタンは、すべてのタブに対して適用されます。

- **デフォルト**：タブの値をデフォルト設定に復元します。
- **コピー**：両面原稿をスキャンする場合にのみ使用できます。片面のカラー、グレースケール、白黒イメージの設定を定義してから、[コピー] ボタンをクリックすると、その設定内容をもう一方の面にコピーすることができます。たとえば、[表面イメージ 1] を設定してから、[コピー] ボタンをクリックすると、その設定内容を [裏面イメージ 1] にコピーできます。
- **OK**：すべてのタブ上で設定された値を保存します。
- **キャンセル**：変更内容を保存せずにウィンドウを閉じます。
- **ヘルプ**：選択されたウィンドウに示されているオプションについてのオンラインヘルプを表示します。

## [メイン] タブ

[メイン] タブには、以下のオプションがあります。



**1インチあたりのドット数** - スキャンする際の解像度を指定します。この設定はスキャンしたイメージの品質に大きく影響します。解像度を大きくすると、画質が良くなります。ただし、高い解像度でスキャンすると、スキャンに要する時間が長くなり、ファイルサイズが大きくなります。

解像度の値はドロップダウンリストから選択します。デフォルトは 200 dpi です。解像度は 100、150、200、240、300、400、600 dpi。

**クロッピング** - スキャンされる原稿の一部をキャプチャできます。クロッピングオプションは、カラー／グレースケール、白黒イメージですべて使用できます。表面と裏面のクロッピングを個別に設定できますが、同時出力スキャンの場合は、カラー／グレースケールクロッピングと白黒クロッピングを読み取り面ごとに同じ値に設定する必要があります。クロッピングオプションは、1イメージに対して1つだけ適用可能です。

- **自動**：異なる原稿サイズに対してクロッピングウィンドウを画像の縁に合わせて直接調整します。
- **自動 - 高画質**：イメージの端に黒の外枠がある場合、それを除去します。この場合、原稿の端のイメージデータが一部失われる可能性があります。
- **ガイド幅に合わせる**：(同じサイズの原稿をまとめてスキャンする場合) イメージとして出力する領域を定義できます。[ガイド幅に合わせる]クロッピングは、用紙サイズとページレイアウトと組み合わせ、原稿を中央に揃えてスキャンする場合に使用します。中央揃えを使用しない場合は、[レイアウト] タブを選択してスキャン領域を設定する必要があります。詳細については、本ガイド後述の「[レイアウト] タブ」を参照してください。

- **ドキュメントに合わせる** : (ゾーンプロセッシング) : (同一サイズの複数ページの原稿に使用) - ゾーンプロセッシングは、原稿の左上コーナーに対応して配置される浮動固定クロップウィンドウ (ゾーン) です。そのエリアをカラー／グレースケールで処理するか白黒で処理するか選択することができます (白黒とカラー／グレースケールを別のウィンドウに定義することもできます)。パラメータは、イメージの表面と裏面でそれぞれ選択できます。

このオプションは、ある部分をカラー／グレースケールまたは白黒で別々に保存したい場合、自動クロッピングとともに使用します。写真、署名、エンボス (浮き出し)、印章など、対象となる部分が一定の場所に配置されている場合に大変効果的です (対象の小さい部分をカラー／グレースケールでスキャンし、残りの部分を白黒でスキャンする場合など)。ゾーンを定義するには、[レイアウト] タブを選択します。

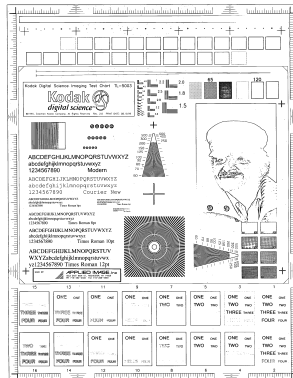
- **写真** : スキャナーは原稿上の写真を検知し、写真のみのイメージを返します。スキャナーが複数の写真をドキュメント上に検知した場合でも、返されるイメージは1つのみです。写真が1つも検知されない場合は、原稿全体が返されます。写真を選択すると、ドキュメント全体で写真が検知されます。
- **写真 (特定領域)** : このオプションは (スキャン領域ダイアログボックスで指定された) 原稿の一部のみから写真を検知するというものを除き、上記の**写真**と同様です。

**バイナリゼーション** - これらのオプションは、グレースケールイメージに適用され、白黒のイメージを出力します。背景色または陰影が異なっても、前景情報が色味と陰影で異なっても、背景情報から前景情報を区別できるところに特長があります。同じ画像処理パラメータを使用してさまざまなタイプの原稿をスキャンでき、優れた画像を得ることができます。

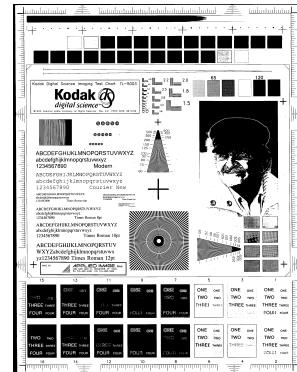
- **iThresholding** : 高品質のイメージを生成するために、原稿を自動的に識別して、最適なしきい値 (スレッシュホールド) が決定されます。単一の設定で画質が異なる原稿 (文字のかすれ、濃淡のある背景、カラーの背景など) をスキャンすることができ、原稿を仕分けする手間を省くことができます。iThresholding を使用する場合は、[コントラスト] のみ調整可能です。
- **固定処理 (FP)** : 白黒の原稿やその他のコントラストの高い原稿に使用されます。[固定処理 (FP)] を選択した場合は、[明度] のみ調整可能です。
- **アダプティブスレッシュホールド (ATP)** : イメージの前景情報 (文字、グラフィック、線など) を背景情報 (白または白以外の用紙の背景) と区別します。アダプティブスレッシュホールドを使用する場合は、[明るさ] と [コントラスト] を調節できます。類似する書類タイプをスキャンする場合にこのオプションを使用します。



スレッシュド（明るさ） - このオプションは[固定処理]または[Adaptive Thresholding (ATP)]を選択すると使用できます。このオプションを使用すると白黒イメージの色を暗くしたり、明るくできます。しきい値が高いほどイメージの色が暗くなります。スライダを使って、0～255の範囲の値を設定してください。デフォルトは90です。



スレッシュド : 50

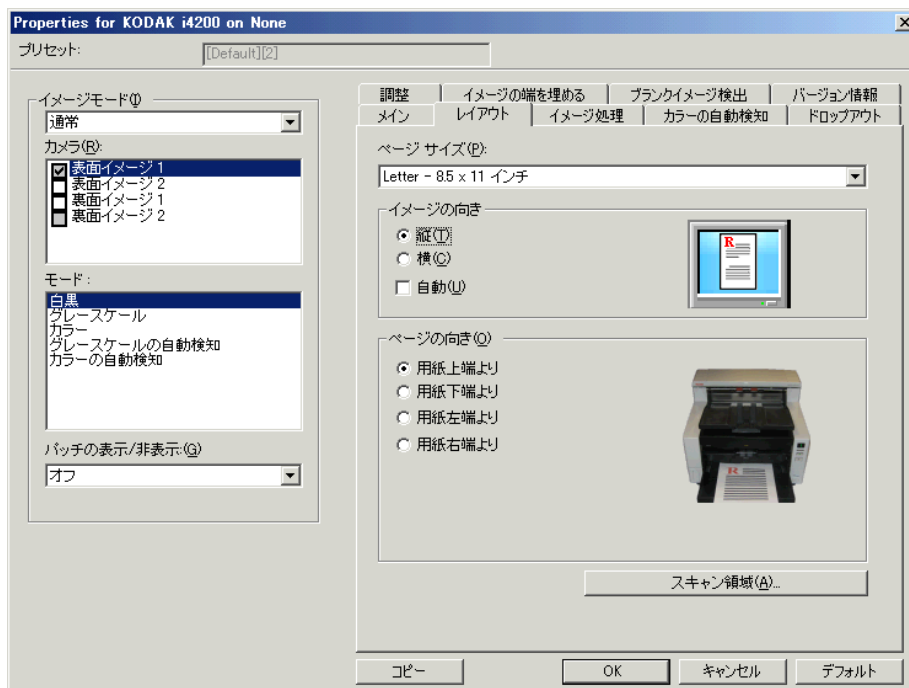


しきい値 : 127

コントラスト - 出力イメージの細部のディテールの強調レベルを調整できます。コントラスト値が高いほど、細部のディテールが強調されます。コントラスト値が低いほど、出力イメージはより鮮明（少ないディテール）になります。コントラスト値を高く設定しすぎると、出力イメージに不要な線や、色が濃くなりすぎたりする場合があります。コントラスト値を低く設定しすぎると、出力イメージに必要な線や文字などが表示されない場合があります。-50～50までの値を選択します。デフォルト値は50です。

## [レイアウト] タブ

[レイアウト] タブには、以下のオプションがあります。



**ページサイズ** - スキャナーが最初に選択されたときのデフォルトの用紙サイズを設定します。ドロップダウンリストからさまざまな用紙サイズを選択できます。[自動]、[アグレッシブ]または[写真]クロッピングオプションを使用する際は、用紙サイズスキャナーの最大値に設定する必要があります。

### イメージの向き

- **縦**：従来の縦長の向きにイメージを表示します。
- **横**：横長の向きにイメージを表示します。
- **自動**：各ドキュメントを分析して、ドキュメントが送信された方法を判断し、イメージを適正な方向に回転します。

**ページの向き** - スキャナーに配置する原稿の向きを選択することができます。[用紙上端より]、[用紙下端より]、[用紙左端より]、または[用紙右端より]を選択できます。

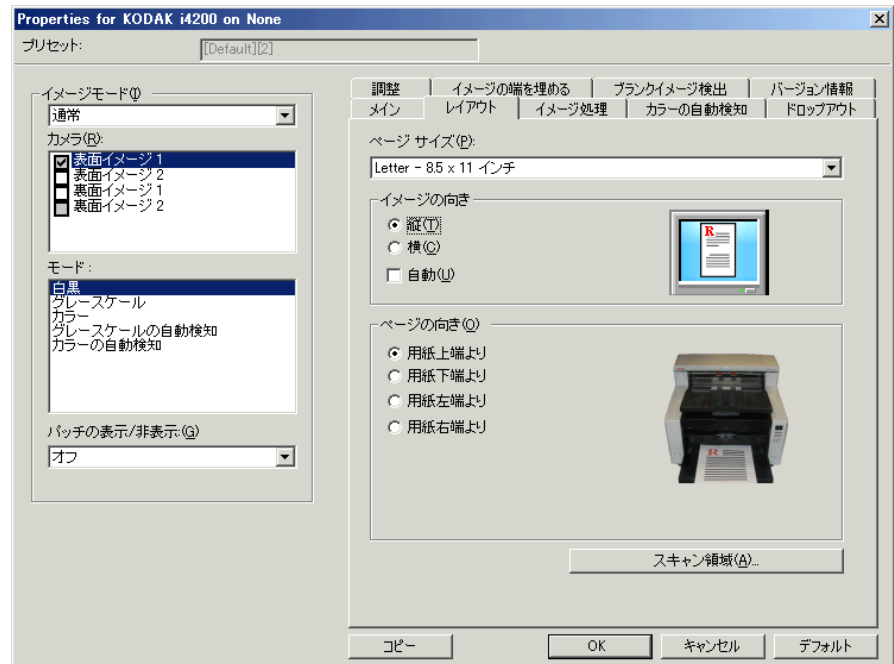
**スキャン領域** - [スキャン領域] ダイアログボックスを表示します。[スキャン領域] オプションは、クロッピングオプションが[ガイド幅に合わせる]または[原稿に合わせる]に設定されている場合にのみ利用できます。詳細については、「[スキャン領域] ダイアログボックス」を参照してください。

## [スキャン領域] ダイアログボックス

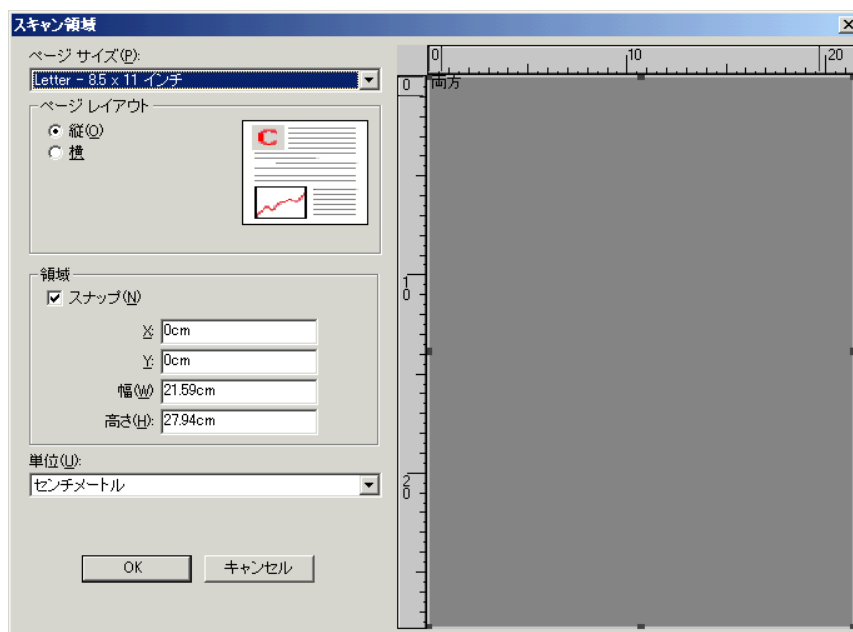
[スキャン領域] ダイアログボックスでは、ホストPCに返されるイメージデータの広さを定義します。

注：[メイン]タブで選択したクロッピングオプションにもとづいて、（[標準]または[結合]のいずれかの）イメージモードを選択します。  
[標準]を選択した場合、定義する面（[表面イメージ 1]、[表面イメージ 2]、[裏面イメージ 1]、または[裏面イメージ 2]）を選択します。  
[結合]を選択した場合、結合イメージの方向（表面を上、表面を下、表面を左、または表面を右）を選択します。すべてのカメラ選択項目に対して定義されたスキャン領域は、それぞれ独立しています。

- [スキャン領域] ダイアログボックスを開くには、[レイアウト]タブの[スキャン領域]を選択します。



注：[スキャン領域]ダイアログボックスは、[メイン]タブで[ガイド幅に合わせる]、[原稿に合わせる]、または[写真(特定領域)]が選択された場合にのみ使用できます。



**ページサイズ** - スキャナーが最初に選択された時点でのデフォルトの用紙サイズを設定します。ドロップダウンリストからさまざまな用紙サイズを選択できます。

注：用紙サイズは[レイアウト]タブにも表示されます。[スキャン領域]ダイアログボックスで設定を変更すると、[レイアウト]タブにも変更内容が反映されます。逆の場合も同じです。

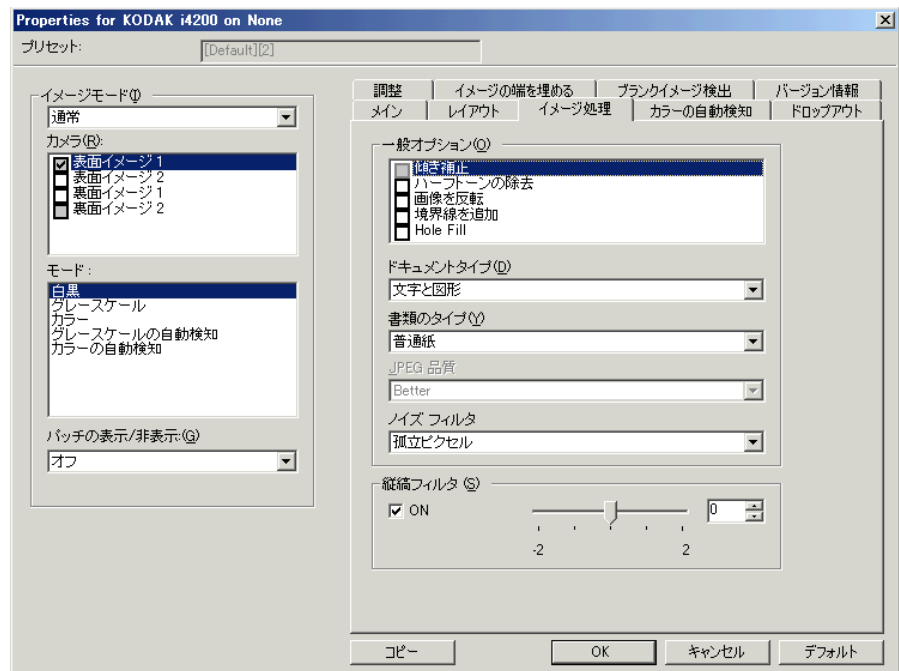
### ページレイアウト

- **縦**：従来の縦長の向きにイメージを表示します。
- **横**：横長の向きにイメージを表示します。

### 領域

- **スナップ**：プレビューウィンドウの大きさを 0.3175 cm 単位で制御する場合に、このオプションを有効にします。このオプションは、**ピクセルモード**では無効になります。
- **X**：スキャナーの左端からスキャン始点の横位置を設定します。
- **Y**：スキャナの上端からスキャン始点の縦位置を設定します。
- **幅**：スキャン領域の幅を設定します。
- **高さ**：スキャン領域の高さを設定します。

**単位** - 領域を定義する単位を [ピクセル]、[インチ]、[センチメートル] から選択します。



### 一般オプション

- **傾き補正** - 原稿の先端の +/-0.3 度以内の傾きが自動的に補正されます。自動傾き補正では、最大 45 度までの傾きを検出し、200 dpi で 24 度まで、300 dpi で 10 度まで補正できます。このオプションは [自動] が選択された場合にのみ使用できます。

注：データの損失を防ぐために、原稿の四隅がイメージ搬送路の中に収まっていることを確認してください。

- **ハーフトーン除去** - ハーフトーンスクリーンを使って、点描画の文字やイメージ、濃淡のある背景やカラーの背景を持つイメージ品質を高め、ハーフトーンスクリーンにより発生したノイズを効果的に除去します。
- **画像を反転** - 黒ピクセルがイメージ内に保存される方法を選択できます。デフォルトでは、黒ピクセルは黒として、白ピクセルは白として保存されます。黒ピクセルを白として、白ピクセルを黒として保存する場合は、このオプションを有効にします。

注：ご使用のアプリケーションがイメージデータの解析/処理を誤り、希望とは異なるイメージが保存される場合は、このオプションで対応できます。

- **境界線を追加** - イメージの上下左右に、外枠を追加します。このオプションは [アグレッシブ] が選択された場合に使用できます。

**パンチ穴除去** - 原稿端の周囲にある穴を埋めることができます。埋められる穴のタイプは、次のとおりです。円、長方形、不定形（例、二穴が開いている、またはバインダーからドキュメントを取り外した際にできた多少の裂け目）。

- 写真をスキャンする場合は[パンチ穴除去]を有効にしないでください。

#### **ドキュメントタイプ**

- **テキスト**：原稿の大部分が文字の場合に選択します。
- **文字と図形**：文章、グラフィック（棒グラフ、円グラフなど）、線画などが混在している原稿の場合に選択します。
- **文字と写真**：文字と写真が混在している原稿の場合に選択します。
- **写真**：主に写真で構成された原稿の場合に選択します。

**書類のタイプ** - スキャンする用紙の素材や重量に基づいてタイプを選択します。オプションは、**普通紙**、**薄紙**、**光沢紙**、**カードストック**、**雑誌**です。

**JPEG 品質** - JPEG 圧縮を選択した場合、いずれかの品質オプションを選択します。

- **ドラフト**：圧縮率を最大にして最小サイズのイメージを生成します。
- **標準**：標準的な圧縮率ですが、満足いく品質のイメージが生成されます。
- **高**：一部圧縮され、良い品質のイメージが生成されます。
- **最高**：小さい圧縮率で良い品質のイメージが生成されます。
- **高品質**：最小の圧縮率で最大サイズのイメージが生成されます。

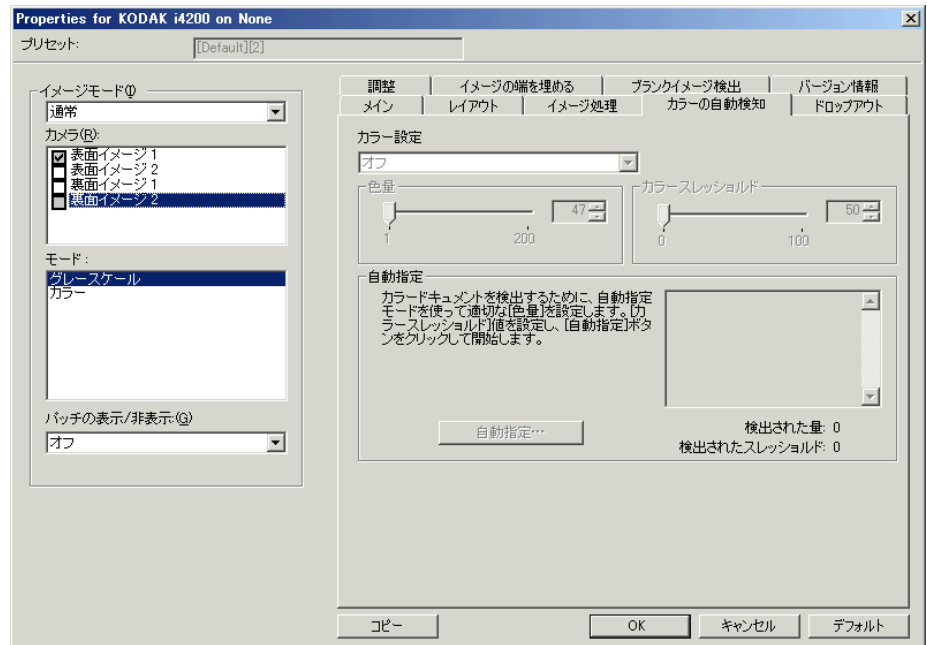
#### **ノイズフィルタ**

- **なし**
- **孤立ピクセル**：白ピクセルで完全に囲まれている単一の黒ピクセルを白へ変換するか、黒ピクセルで完全に囲まれている単一の白ピクセルを黒へ変換することにより、ランダムノイズを減らします。
- **マジョリティールール**：各ピクセルをその周辺全域のデータに基づき設定します。ピクセルは周辺全域ピクセルのマジョリティが白の場合白になり、黒の場合は黒になります。

**縦縞フィルタ** - イメージから縦縞をフィルタするようにスキャナーを設定できます。縦縞とは、元のドキュメントの一部ではないのに、イメージに現れることがある線のことです。縦縞は、原稿上の汚れ（例、泥、塵、または擦り切れた端）が原因で発生するか、スキャナーの推奨される清掃手順に従わないために発生する場合があります。スライドバーを -2 から 2 動かして、縦縞がフィルタされる範囲を調整します。デフォルト値は 0 です。

## [カラーの自動検知] タブ

[カラーの自動検知] タブには、以下のオプションがあります。



### カラー設定

- **オフ**：デフォルト設定です。カラー設定は検知されません。
- **小**：カラー/グレースケールイメージとして保存するときに、スキャンする書類の色の量が少ない場合に選択します。黒い文字と小さなロゴが主体の原稿や、マーカの量や写真の色が少ない原稿をスキャンする場合に適します。
- **中**：カラー/グレースケールイメージとして保存する場合に、[低] オプションよりも色の割合が多い原稿の場合に選択します。
- **大**：カラー/グレースケールイメージとして保存する場合に、[中] オプションよりも、色の割合が多い場合に選択します。中～大規模のカラー写真などを多用している原稿に適します。中間色の割合が大きい写真を正しくスキャンするには、色量やカラーズレッシュヨルドの調整が必要になる場合があります。

- ・ **カスタム** : マニュアルで **[色量]** や **[カラー スレッシュホールド]** の値を調整することができます。

注 : **[自動カラー検知]** の値を設定した場合は、まず **[中]** オプションを選択してから、通常のスキャン作業でテストしてみることをお勧めします。白黒と比較して原稿の大半がカラー/グレースケールとして返された場合は、**[高]** に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。白黒と比較してカラー/グレースケールとして返された原稿が少なすぎる場合には、**[低]** に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。以上のオプションで満足の良い結果が得られなかった場合は、**[カスタム]** オプションを選択して色量やカラー スレッシュホールドを調整してください。

**色量** - スキャンイメージをカラー/グレースケールで保存する際に必要な原稿上の色の量です。色量の値を増やすと、必要とされるカラーピクセルの量も増加します。有効値は 1 ~ 200 です。

**カラー スレッシュホールド** - 色量の算出時に、色として識別させるためのカラーしきい値や彩度の割合（薄青と紺色の対比など）です。値を増やすと、必要とされる彩度が高くなります。有効値は 0 ~ 100 です。

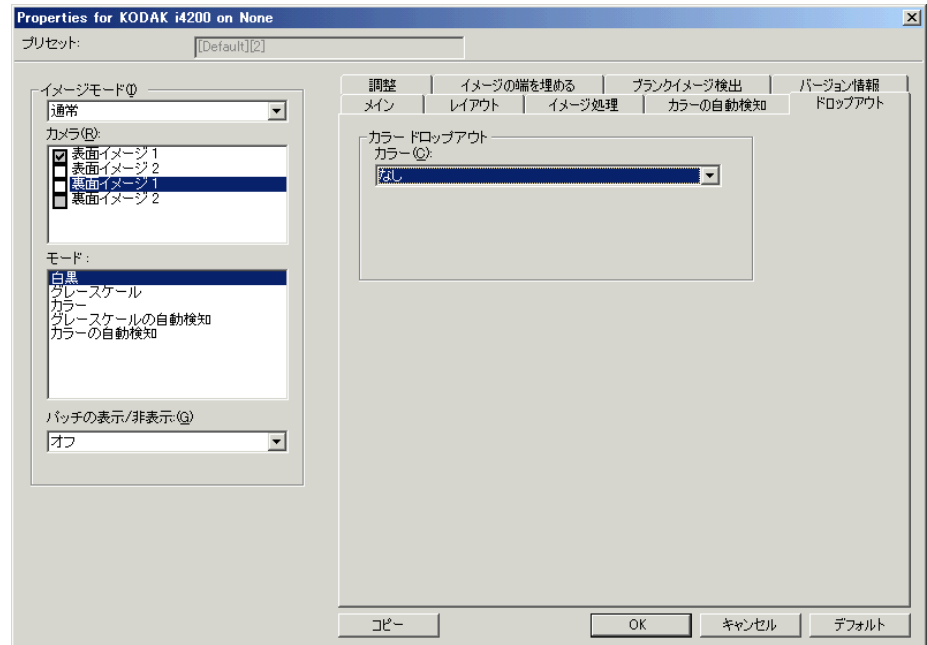
**自動設定** - スキャンしたサンプルのカラー原稿に基づいて設定値を算出します。**[自動設定]** を選択する前に、入力エレベータに 5 枚以上のカラードキュメントをセットしてください。これらの原稿をスキャンし、分析することで推奨される **[色量]** が決定します。

注 : 計算に応じて **[色量]** と **[カラー スレッシュホールド]** のスライダが自動的に調整されます。算出された値を使っても期待通りの結果にならない場合は、**[カラー スレッシュホールド]** の値をマニュアルで調整してください。



## [ドロップアウト]タブ

[ドロップアウト]タブには、以下のオプションがあります。



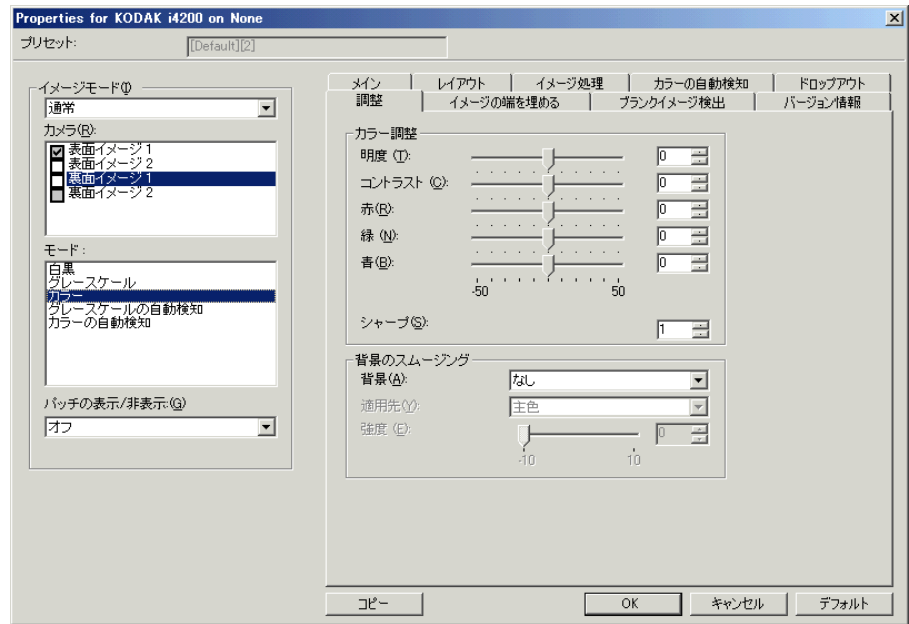
**カラードロップアウト** - フォームの背景を消去するために使用します。背景が消去されると入力されたデータのみがイメージとして保存されます（フォームの線とボックスを削除）。白黒イメージの場合、スキャナーがイメージの生成のために解析するグレースケールの原稿は、これらの設定に影響を受けます。

- **カラー**：ドロップアウトする色を選択します。
  - なし
  - 赤：赤色をドロップアウトします。
  - 緑：緑色をドロップアウトします。
  - 青：青色をドロップアウトします。
- **背景値**：スキャンイメージをカラー／グレースケールで保存する際に必要な原稿上の色の量です。[背景値]の値を増やすと、必要とされるカラーピクセルの量も増加します。
- **しきい値**：色量の算出時に、色として識別させるためのカラーしきい値や彩度の割合（薄青と紺色の対比など）です。値を増やすと、必要とされる彩度が高くなります。

**フォームに入力された色** - 黒または青のインク以外の色が、フォームに入力された日付に対して使用されたことを示します。

## [調整] タブ

[調整] タブには、以下のオプションがあります。



**白黒、グレースケール、グレースケールの自動検知。**

**明度** - カラー／グレースケールイメージ中の白のレベルを調整します。値の範囲は、[-50] から [50] です。

**コントラスト** - イメージをシャープに、またはソフトにします。値の範囲は、[-50] から [50] です。

### カラー、自動検知カラーモード

スライダを左右に移動するか、テキストボックスに値を直接入力、またはテキストボックスの上下矢印を使って、次の設定値を調整できます。

- **赤** - カラーイメージ中の赤のレベルを調整します。
- **緑** - カラーイメージ中の緑のレベルを調整します。
- **青** - カラーイメージ中の青のレベルを調整します。

**背景のスモーキング** - 背景色のある原稿やフォームをスキャンする場合にこのオプションを使用すると、背景色がより均一なイメージが生成されます。

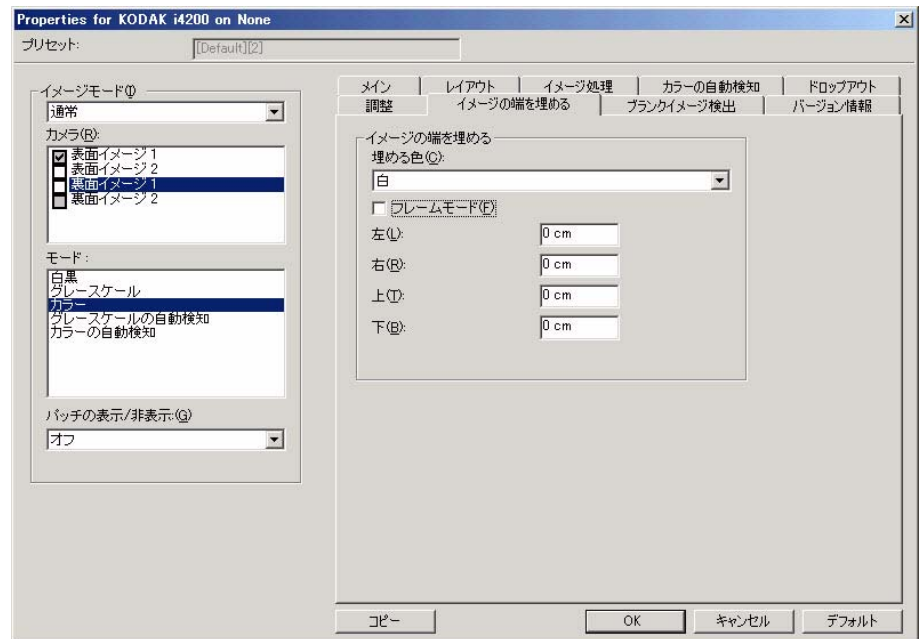
- **背景** : 以下のオプションからいずれかを選択します。
  - **なし** - 背景のスモーキングは行いません。
  - **自動** - 背景色を 3 色までスモーキングします。
  - **白に変換** - 3 色までの背景色を指定し、各色を白にすることができます。このオプションを選択すると、**適用**オプションが使用可能になります。

• **適用先 :**

- **主色** - 背景色のメインの色を白にします。
- **中間色** - 中間色を白にします。他の 2 つの背景色も均一なカラーにスムージングします。
- **すべて** - 中間色を白にします。他の背景色も 2 色まで白にスムージングします。

**シャープ** - 強弱を調整して背景を決定できます。値の範囲は、[-0] から [3] です。

**[イメージの端を埋める]タブ** 最終的に出力される電子イメージの端の領域を、選択された色で埋めます。このオプションは、他のイメージ処理オプションがすべて適用された後に適用されます。



**埋める色** - 端を埋める色を選択できます。

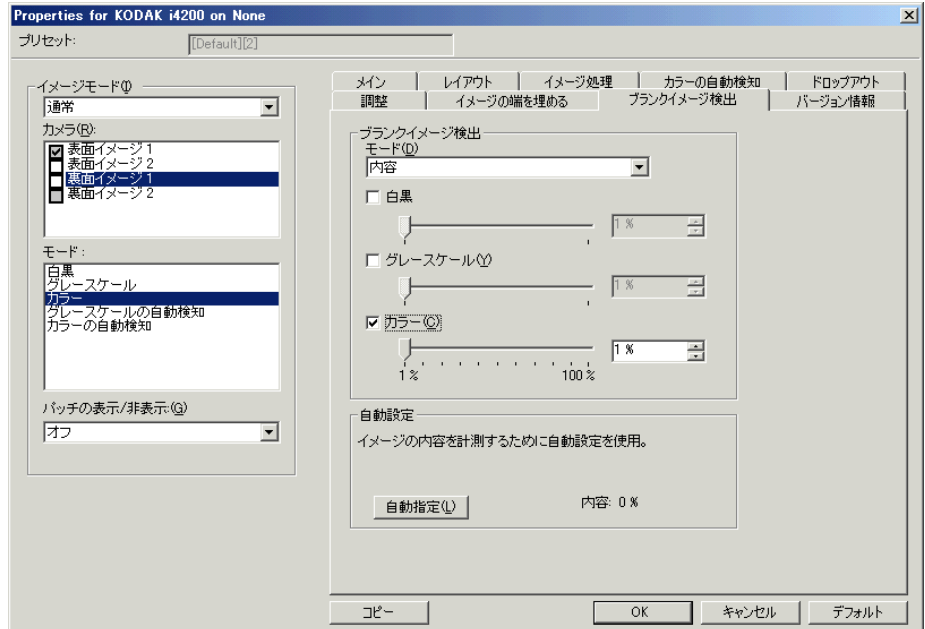
- なし
- 白：イメージの端が白色で埋められます。
- 黒：イメージの端が黒色で埋められます。

**フレームモード** - [イメージ端埋め] オプションで選択された色と等しい量で、イメージのすべての辺を埋めます。または、[上]、[左]、[右]、[下] に値を指定して、スキャンしたイメージの各辺の埋める量を指定することもできます。

**注**：イメージ端埋めを使用するときは、大きな値を入力しないよう注意してください。値が大きすぎると、イメージデータが塗りつぶされる場合があります。

## [ブランクイメージ検出]タブ

ブランク イメージ検出 - スキャンアプリケーションに白紙のイメージが取り込まれないように設定できます。イメージが白紙と判断されるイメージのサイズ (KB) を指定します。設定値未満のサイズのイメージは作成されません。このオプションを使用する場合は、削除するイメージの種類 (白黒、グレースケール、カラー) ごとに白紙と判断されるイメージサイズを指定する必要があります。これらのフィールドに値を入力しない場合は、すべてのイメージが保持されます。



### モード

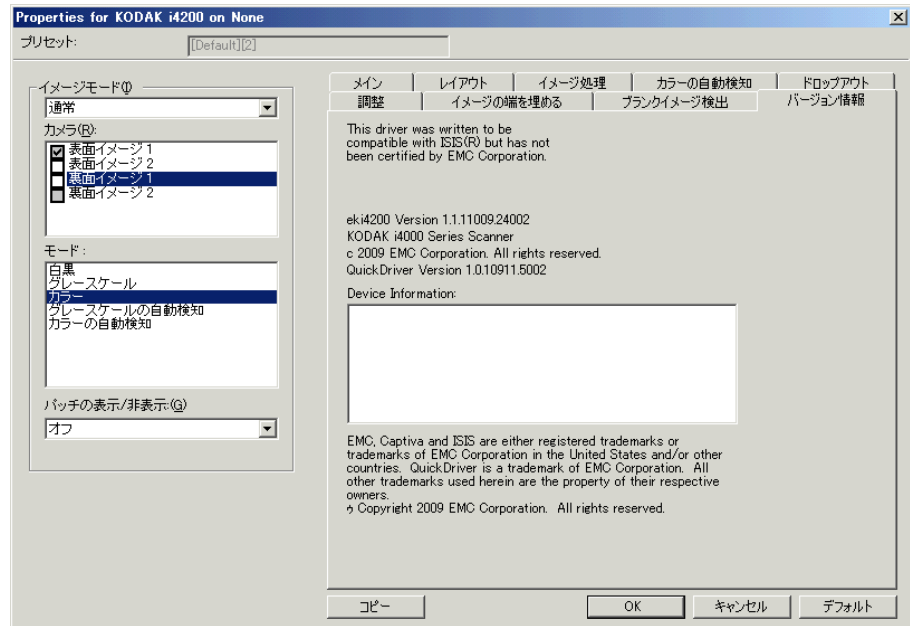
- **オフ**：すべてのイメージがスキャンアプリケーションに送信されます。
- **サイズ**：スキャンアプリケーションに送信されたイメージのサイズに基づいて、白紙であるかどうか判断されます（他のすべての設定が適用された後）。
- **内容**：イメージ内の原稿内容に基づきイメージが白紙であるかどうか判断されます。[白黒]、[グレースケール]、[カラー]を選択し、スキャナーが白紙と判断する最大の内容量を選択します。内容量がこの値以上のイメージは白紙でないと判断され、スキャンアプリケーションへ送信されます。値の範囲は、[0]から[100]です。

**自動設定** - スキャンされる原稿にもとづいてスキャナーが内容量を判断します。この機能を使用するには、[自動設定]をクリックします。

注：自動設定モードは表面と裏面の両方では適用できません。適用する面を選択する必要があります。

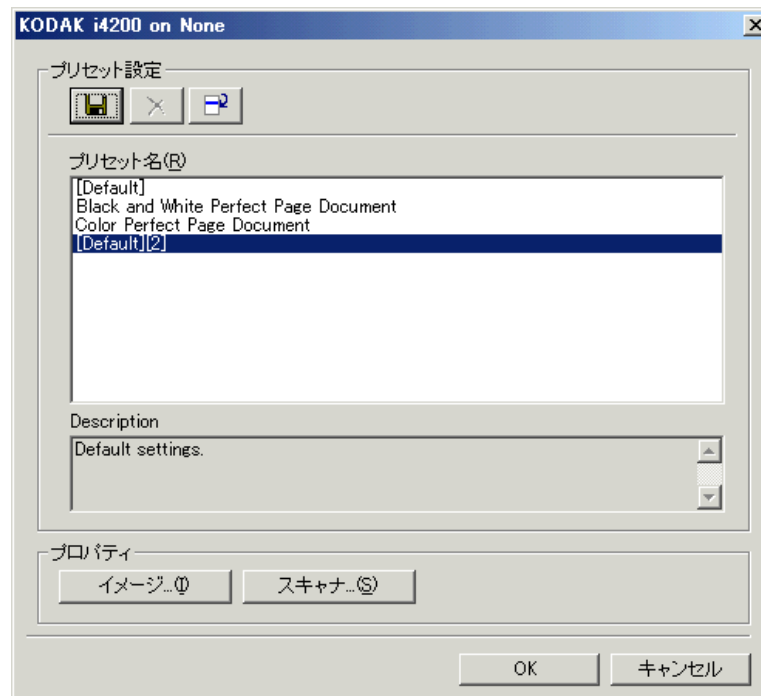
## [バージョン情報] タブ

[バージョン情報] タブはスキャナーとドライバについての情報を表示します。



## スキャナ設定の実行

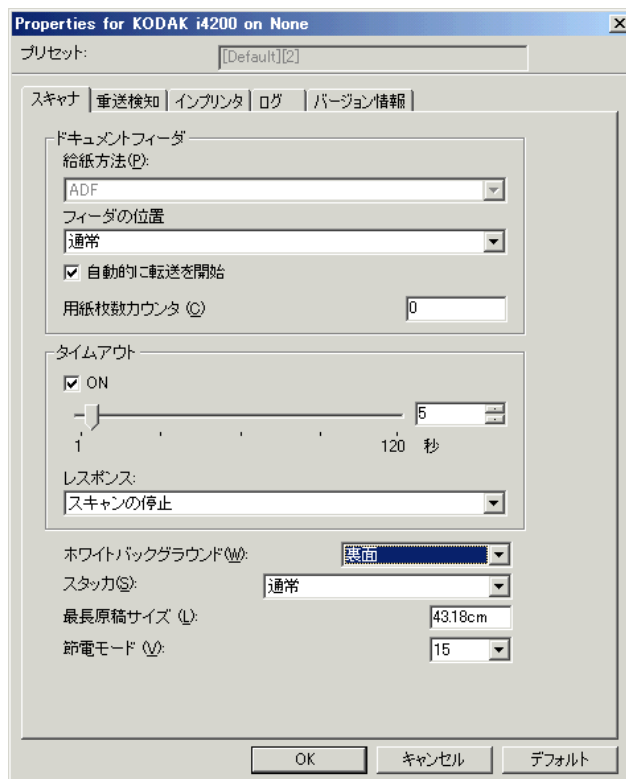
ISIS ドライバからスキャナ設定を開くには、Scan Validation Tool を前述の手順で開き、ISIS ドライバにアクセスします。



- [スキャナ] をクリックして、スキャナーを設定できます。以下の章ではスキャナー設定の詳細や手順について説明します。イメージ設定の手順については、本ガイドに前述の「イメージ設定の実行」という章を参照ください。

## [スキャナ] タブ

[スキャナ] タブには、以下のオプションがあります。



### ドキュメントフィーダ

#### 給紙方法

- **ADF** : 入力エレベータが一番高い位置にあります。このオプションは、入力エレベータから 25 枚以内の用紙をスキャンする場合に便利です。
- **フラットベッド** : スキャナーはフラットベッドからスキャンします。

#### フィーダ位置

- **通常** : 最初にドキュメントフィーダに原稿があるか確認します。入力トレイに原稿がない場合、スキャナーはフラットベッドからスキャンします。
- **100 枚** : 最初に入力エレベータに用紙があるかどうか確認し、入力エレベータに原稿がない場合、フラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 25 ~ 100 枚の原稿をスキャンする場合に便利です。
- **250 枚** : 最初に入力エレベータに原稿があるかどうか確認し、入力エレベータに原稿がない場合、フラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 100 ~ 250 枚の用紙をスキャンする場合に便利です。
- **500 枚** : 最初に入力エレベータに原稿があるかどうか確認し、入力エレベータに原稿がない場合、フラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 250 ~ 500 枚の用紙をスキャンする場合に便利です。

**自動的に転送を開始** - このオプションが選択されると、スキャナーは原稿が入力エレベータにセットされるまで最長 10 秒間待機します。

**タイムアウト** - 最後の原稿が取り込まれてからトランスポートタイムアウトが実行されるまでの時間を設定します。遅延時間設定を 1 ~ 300 秒の間で指定します。

**レスポンス** - ドキュメントフィーダがタイムアウトになったときに実行するアクションを指定します。

- **スキャンの停止** : スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります (ジョブを終了します)。
- **スキャンの一時停止** : スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します (フィーダを停止します)。スキャナーの**開始/再開**ボタンを押すと、スキャンを再開します。スキャナーの**停止/一時停止**ボタンを押して、またはスキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。

**ホワイトバックグラウンド** - 原稿の一部が無い場合、その部分を黒い背景にするか白い背景にします。

- **(なし)** : 表面と裏面に黒バックグラウンドを使用します。
- **表面** : 表面用にホワイトバックグラウンドを使用します。裏面用には黒が使用されます。
- **裏面** : 裏面用にホワイトバックグラウンドを使用します。表面用には黒が使用されます。
- **両面** : 表面と裏面にホワイトバックグラウンドを使用します。

以下は、ホワイトバックグラウンドが役立つ場合の例です。

- 四角形でない原稿をスキャンするときに、イメージでは、原稿の外側のエリアを黒ではなく白にする必要がある場合。
- 片面印刷の薄い紙をスキャンするときに、原稿の地に黒が透けるのを最終イメージには表示されないようにする必要がある場合。

**スタッカ** - スキャナーが原稿を送る方法を選択できます。これにより、ドキュメントがスキャナーにフィードされる方法、スキャナー内で送られる速度、出力トレイに排出される方法に影響がでます。

- **標準** : 追加の処理は行われません。原稿のサイズが全て同じ場合に最適です。
- **サイズ混在** : サイズが混在する原稿を出力トレイ上に順番に積載される様に制御します。これは大抵のサイズ混在の原稿セットに使用できます。
- **サイズ混在 : ベスト** : サイズの差が大きい混在原稿セットの場合、出力トレイ上に順番に積載される様に最適に制御されます。



**最長原稿サイズ** - 原稿セット内で最長の原稿サイズの値を設定します。

注：

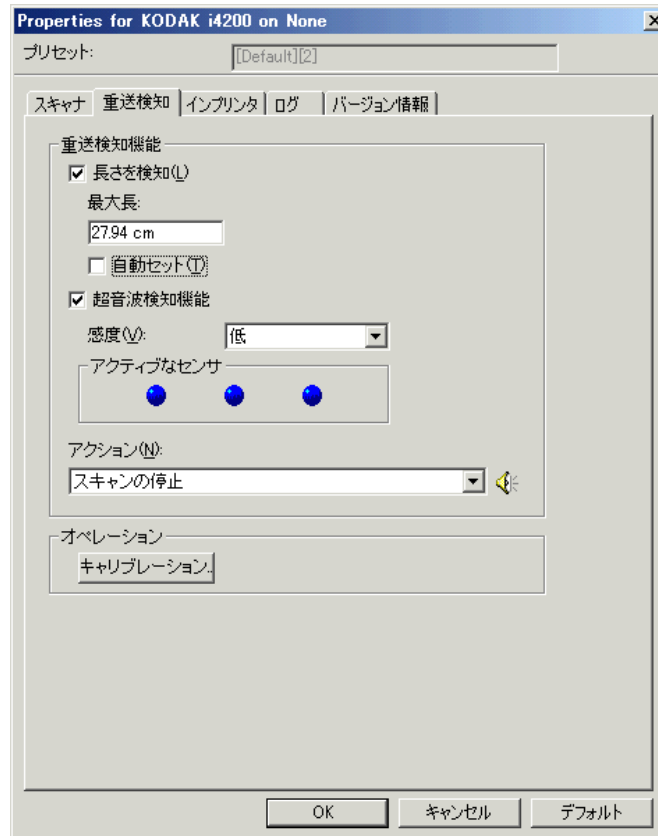
- この値を変更すると、次の設定の最大値に影響します。**領域 - 幅、高さ、**
- **プリンタ - 先端からのオフセット値、重送 - 原稿サイズ検知。**
- 最長原稿サイズは解像度、カラー、グレースケールスキャンなどの条件によって制限があります。柔軟にアプリケーションに対応できるように、長さを超えた原稿が確認されるまでエラーを生成しません。
- 長尺原稿の場合は、スキャナーの処理能力が減少することがあります。

**節電モード** - スキャナーが操作されていないときにアイドル状態に移行するまでの時間（0～60分）を設定できます。デフォルトは15分です。

**電源オフ** - スキャナーの電源が自動的にオフになるまでの時間（分単位）を設定できます。

## [重送検知]タブ

重送検知機能は、原稿が重複して給紙された時点で検知します。重送検知はホッチキスで綴じられた原稿、糊のついた原稿、静電気を帯びている原稿が原因で生じます。[重送検知]タブには、以下のオプションがあります。



**長さを検知** - 有効にすると、重送検知されずにスキャンされる最長原稿サイズを選択できます。同じサイズの原稿のスキャン時に重送を検出するため、長さ検出を使用します。たとえば、A4 (8.5 x 11 インチ) の原稿を縦でスキャンする場合は、[最大長] フィールドに 28.57 cm (11.25 インチ) と入力します。最大の値は 35.56 cm です。

- **自動セット** : 現在選択されている用紙サイズより 1.27 cm 長い値を自動的に最大の長さとして設定します。

**超音波検知機能** - 重送検知機能を設定する場合に、このオプションを選択します。

- **感度** : 搬送路に複数の原稿が重なった状態で送られたかどうか、検知レベルを指定します。重送検知機能は、書類との隙間を検出することにより、重なった書類を認識します。そのため、厚さの異なる原稿が混在しているような場合でも、重送を検知できます。
  - **低** : レベルが低い設定で、ラベルが貼られた原稿、紙質の悪い原稿、皺がある原稿を重送として認識する可能性がもっとも低くなります。

- **中**：厚さが異なる原稿や、ラベルを貼った原稿をスキャンする場合に使用します。ラベルの材質にもよりますが、大部分のラベルは重送とは認識されません。
- **高**：最も高いレベルで重送を検出します。この設定は、すべての原稿が75.2 g/m<sup>2</sup>のボンド紙である場合など、厚さが同じ原稿をスキャンする場合に向いています。

**アクティブなセンサ** - 3つのセンサが搬送路の幅をカバーします。重送書類が正しく検知されるためには、これらのセンサの下を通過しなければなりません。

- **左、中央、右**：このオプションで、どのセンサを有効にするか選択できます。たとえば、書類の左側にメモが「貼付」されている場合、左のセンサを無効にできます。
- **アクション**：重送を検知した時のスキャナーの動作を選択します。オプションに関係なく、状態はスキャナーのログに記録されます。
  - **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。搬送路に原稿が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
  - **スキャンの停止 - 用紙を搬送部に残す**：スキャンを直ちに停止し（搬送路はクリアされません）、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。搬送路から原稿を取り除き、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
  - **スキャンの続行**：スキャナーがスキャンを継続します。
  - **スキャン一時停止**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションはイメージ取得を待機します（フィーダを停止します）。スキャナーの**開始／再開**ボタンを押すと、スキャンが再開します。スキャナーの**停止／一時停止**ボタンを押して、またはスキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。
  - **スキャンの一時停止 - 用紙を搬送部に残す**：スキャンがただちに停止します（搬送路をクリアしようとしません）が、スキャンアプリケーションは、イメージ取得を待機します（フィーダを停止します）。スキャンセッションを開始する前に、搬送路から原稿をクリアします。スキャナーの**開始／再開**ボタンを押すと、スキャンが再開します。スキャナーの**停止／一時停止**ボタンを押して、またはスキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。

**アラーム音量** - 重送が検知された際にスキャナーに警告音を出させたい場合は**低**、**中**、**高**のいずれかを選択します。

注：スピーカーアイコンをクリックすると、[開く]ダイアログボックスが表示され、アラーム用の警告音(.wav ファイル)を選択できます。

**キャリブレーション** - [キャリブレーション]ウィンドウを表示します。このウィンドウからは**イメージチェーン**または**UDDS**キャリブレーションを実行できます。

注：キャリブレーションは頻繁に行う必要はありません。サービス & サポート担当者の指示があった場合のみキャリブレーションを実行します。

## [インプリンタ] タブ

拡張プリンタは、スキャナーの最高速度で動作します。日付、時刻、ドキュメント順次カウンタ、カスタムメッセージを印字することができます。

リテラル（静的）情報（バッチ名、オペレータなど、どの原稿に対しても同じになる情報）とダイナミック（動的）情報（ドキュメントカウンタなど、スキャンするページごとに異なる情報）の両方を組み合わせて設定できます。リテラル（静的）フィールドはスキャンソフトウェアによって制御されます。ソフトウェアからユーザが入力できる情報をプリンタに送信できます。



**ON** - プリンタを使用するためには、ここをクリックします。

**フォーマットのテンプレート** - フォーマットテンプレートは印字文字列を構築するために使用されます。印字文字列は原稿が搬送路を通る際に印字される文字です。スキャン前に原稿に印字されるため、印字文字列がイメージに反映されます。印字文字列の最大文字数は40文字です（スペースを含む）。

**日付** - 印字文字列に日付を加えたい場合は、以下からフォーマットを選択します。

- **フォーマット** : MMDDYYYY、DDMMYYYY、YYYYMMDD。
- **区切り文字** : 次のいずれかのセパレータを選択します。**スラッシュ** : /、**ダッシュ** : -、**ドット** : .、**スペース** または **なし**。例 : 08-24-2010、08.24.2010、08 24 2010、08242010（なしの場合）。

**カウンタ** - 印字文字列にカウンタを加える場合は、以下のいずれかのオプションを入力できます。

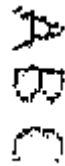
- **フィールドの幅** : ドキュメントカウンタの桁数を定義します。値は、1～9までの範囲です。
- **フォーマット** : 印字するカウンタ値の桁数がフィールド幅以下の場合、カウンタのフォーマットを設定できます（下の例はフィールド幅が3、カウンタ値が4の場合です。）。次のオプションを選択できます。
  - **リーディングゼロの表示** (デフォルト) : “004”
  - **リーディングゼロの削除** : “4”
  - **リーディングゼロの圧縮** : “ 4”

**上余白** - 原稿の上端から印字文字列までの距離を定義します。テキストボックスに適切な値を入力します。

注 : 情報がすべて印字されていなくても、印字はドキュメントの後端から 6.3 mm (1/4 インチ) のところで自動的に停止します。

**単位** - インチ、センチメートル、ピクセルのいずれかを選択します。

- **フォント** : 印字フォントを選択できます。
  - **スタイル** : 使用できる文字の書式は、[標準]、[大文字]、[太字] です。



[標準] : 90 度回転

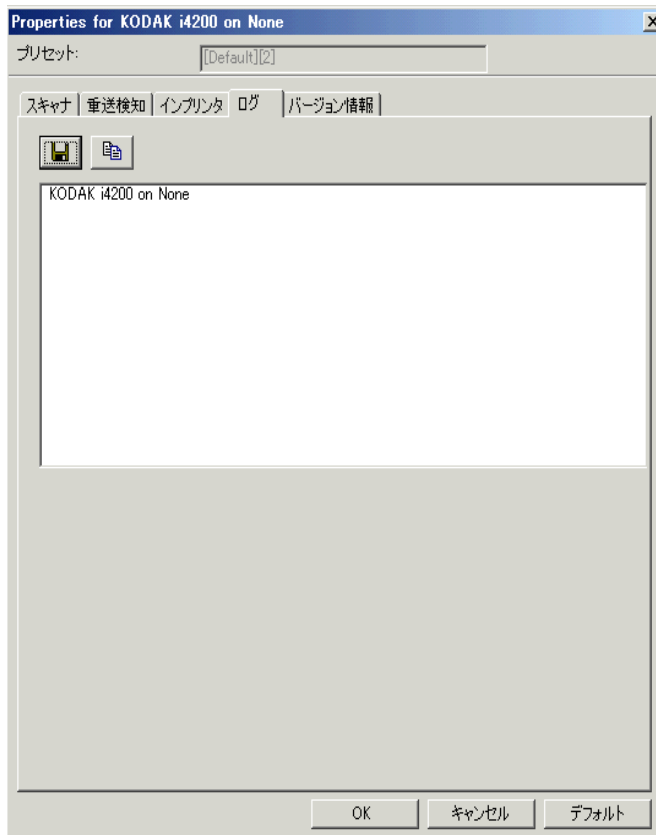
大 : 90 度回転

太字 : 90 度回転

**回転** - 0 または 90 度のいずれかを選択できます。

## [ログ] タブ

[ログ] タブには、これまでに発生したエラーが表示されます。



オペレータログと測定値ログのデータは表示したり、保存アイコンをクリックして保存したり、データをクリップボードにコピーしてドキュメントに貼り付けることもできます。

# Kodak